家庭科教育の男女共修をむかえて（5）

生活の変化と

家庭科教員養成の課題

柳 昌子

はじめに

家庭科の役割を一言で表現するとすれば、主体的・生活者の育成ということである。日本家庭学会によれば、生活者に生産者プラス消費者の意味がある。家庭科教育学で生活者という用語を頻繁に使用するようになっているのは、生産者主導の物中心主義、あるいは経済優先の効率主義から脱して、生活を営む側から生活文化を創造することも包含することである。生活者という用語が相応しいと考えられるかであろう。

高校の家庭科が男女共修になったということは、このような生活者の育成に男子高校生も加えられるようになったということである。その経緯や中、高校の教育実践はすでに報告されているので、ここではそれとは別の視点から述べてみたい。
一、生活をとりまく便利な環境

なぜ、今、家庭科の共修かということについて私
なりの整理をしておきたい。『お手伝い』をしたる
賞賛され、もった、もっとと促された時期を過ぎる
と、受験」と『部活』の切り札の前に親子ともど
も『お手伝い』に無関心になる。よく識者から現代
の家庭の教育力は衰退していると指摘されるが、実
際には教育費の支出や親の教育的関心は、『現代』
以前に比べてはるかに高い。にも関わらず教育力が
衰退しているというのは、家庭が自身の担うべき教
育の分担力に入れていないという点への批判に他
ならない。多くの場合支払われる教育費も教育的関
心もともに、家庭が担うべき分担に対してではない
という訳である。

以前はそうではなかった。それこそ如く、立てば歩
前の親心。これは幼児の成長を待ちに待つ親心を表
現したものである。親たちは一つの課題が達成され
ると次々と新たな課題を示し、子どもがそれを達成
していくことを喜び願う。

このような課題の中に、いつ頃からか身近な生活
処理技能の育成のための教育、つまり『お手伝い』を
自分の首の回りの整理整頓』や『お手伝い』（家
事参加）が、またそれと並行して家業を継ぐため
の、あるいは糧を得るための労働教育も含まれた。
一方、家族の間や近隣同での付き合い方など社会的
能力についても、親たちは細かく目配りした。しかし
到達度の評価基準を次第に高めながら練習を繰
返させ、かげりその社会の中で生きていくような
一人前の労働者が生活者として育て上げていた。

現代は、自給自足的社会のように衣食住を自分
自で、あるいは身近な補助者の手を借りて賑わな
ければならないという状況ではなく、一人立ちする
時もそれほど覚悟を必要としていない。よほどの田
二、家庭科の役割

しかしそれはどのような「生活」なのだろう。社会、社会科や国語などを学習しなくても暮らしていると
うの同じことで、それは習わないで暮らせる程度
の「生活」に他ならない。カード破産、育児ノイ
ローゼなどに陥る状況をみてみると、何とかなると
わかる。高度な商品化社会の中での商品選択、錯綜
する膨大な情報の中での意思決定、原料や添加剤、
製造過程のわからない食べ物など、暮らしの仕組み
はかつつ社会とは比べものにならないくらい見え
難く、また複雑になっている。現代では、知らない
で生活するということは、自分の命を縮め家庭を崩
壊させるだけでなく、他人を傷つけ自然を破壊させ
る可能性をもつということである。

自立した生活者というのは、これらのことを知
点検し、それらを高める活動とともに開始されなければならない。教員の養成のための教科専門科目である「家庭科教育研究」の最初の授業で、学生に家庭科視点で学ぶために、家庭科教員養成における教科の位置を示すために、教科の準備教育が必須である。特に、家庭科教員養成における教科の位置がどこにあるか、家庭科教員の視点から説明する必要がある。

また、中学校や高等学校で共学に難色を示しているのが受験科目的担当である教員や、新たな施設設備を整えなければならなくなった経営者である場合が、理科や社会と同様に普通教科の一つであることがある。これまでの検討や教材・教具の開発の努力が行われてきており、申請する作業が必要である。ここでは私たちは実験をおこなうように、教員養成の現場を示し合う。これには私のささやかな実験を紹介しよう。

教科研究は、大学生自身が生活者がであることを覚える作業から開始する。漫然と見ていっては気づかないような生活の仕組みを、やや非日常的な作業を通じて極端な形で暴いてみる。そして関心をもった生活事象から一つの課題を設定し教材化を試みる。教科内容を整理する段階で小、中、高校の教科書や参考書に目を通し、対象学年を特定した後で目標を定め、学習方法を工夫する。これからの作業は学生四人による班活動で行い、授業のなかで逐次発表する。①から⑤までのクラス四〇名から六〇名の、二〇歳前後の教員養成の青年たちと作った授業の一部である。①内は対象学年と作成班の学生数である。
買い物行動を役割演技した。計画していない場合の
ロウニ型と、結果としての三つの「無駄」が誇張
されて演じられると、学生たちは笑いながら観いて
見ていた。動線の違いは二色の紙テープの長さで示
された（小学六年用…女子二名、男子三名）。
第の食事には柔らかい物が増えたが、歯の健康
を考えて再検討する必要があることを知らせる
君と頼朝の食事が食べられるか）

卑弥呼の時代と現代の食事時間、及び食べ物
を嗜んだ回数の平均値を比べると、五十一分・三九
九〇回数と十一分・六二〇回数（神奈川歴科大資
料）になる、という資料の面白さに触発されて、近く
の歴科医から最近の歯をめぐる状況について取材
し、教材を作成した。発表はまず文献に基づいて源
朝の食事を再現し、班員で食べ、食事時間や嗜む
回数を調べ、それを学内食堂の定食の場合と比較し
表にまとめた。そして現代の食材料や調理法につい

— 19 —
おわりに

家庭科は自分自身が生活者であるとの自覚をも

題材名「十三年前のお母さんになる。」となり、附

属中学一年の家庭生活領域で授業にかけられた。

また、家庭科の対象は、近隣からアジアの地域、全

世界の人々や自然と共存・共生しながら、自分自身

と家族が健康で快適な生活を実現するための知識や

方法を学ぶのであって、それも女性に限らない。家

庭科の共修が肩肘張らずに語られるような教科につ

りと授業っくりに精を出す。

（福岡教育大学）

*このシリーズは、今回で終了いたします。